

# 台湾南部で再発見された *Raapia sauteri* Fleutiaux というコメツキダマシ

鈴木 互<sup>1)</sup>・謝 瑞帆<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 〒 211-0031 神奈川県川崎市中原区木月大町 6-1 法政大学第二高等学校生物科 (wsuzuki@hosei2.ed.jp)

<sup>2)</sup> 10617 臺北市大安區羅斯福路四段 1 號 國立臺灣大學昆蟲學系暨研究所 昆蟲保育研究室

## Rediscovery and redescription of *Raapia sauteri* Fleutiaux (Coleoptera, Eucnemidae) from Southern Taiwan

Wataru SUZUKI and Jui-Fan HSIEH

Summary. *Raapia sauteri* was described by Fleutiaux (1929) on the basis of unrecorded number of specimens collected from Taiwan. However, no additional specimens have been recorded since the original description. Recently, two specimens of *R. sauteri* were collected with Malaise trap set in broad-leaved natural forest in the southern part of Taiwan. This is a record of the first time in 84 years since the original description. In the present paper, the female of this species is described and illustrated.

*Raapia sauteri* は Hans Sauter (1871–1948) により Formose (台湾) で採集された複数の個体に基づいて Fleutiaux (1929) により命名記載されたコメツキダマシである。その後は、カタログや検索表に学名や簡単に特徴が再録されたりしたが、採集記録を伴った報告はこれまでなかった。

筆者のひとり謝は、昨年台湾南部の知本においてマレーゼトラップを設置して調査をおこなったところ、櫛歯状の触角をもつ見慣れぬコメツキダマシが 2 頭、得られた標本資料の中に含まれていることに気付いた。その後、鈴木とともに標本の調査をおこなった結果、これらは原記載以来これまで全く記録のなかった *Raapia sauteri* Fleutiaux であることが原記載やタイプ標本の写真の比較により明らかになったので、ここに報告したい。本種が台湾から再発見されるのは、84 年ぶりのことである。

本種が所属する *Raapia* 属は、Fleutiaux (1899) により属が設立されて以降ほとんど取り上げられた例がなく、Cobos (1986) が *R. philippinensis* を Tawitawi 島から記載した際に、本属の 4 種の検索表を付けて紹介しているにすぎない。今回、台湾産の種を検した結果、本属は台湾に生息するコメツキダマシの中でもたいへん特徴のあるものであることが明らかになったので、ここにその形態の特徴を図示し、再記載しておきたい。

なお、本研究で用いたコメツキダマシの資料は、2012 年に「鞘翅目昆蟲作為森林生物多様性之指

標—以具代表性之甲蟲科級成員為例」という研究題目の下、中華民国行政院農業委員会林務局の許可を得て、知本国家森林遊楽区において調査が行われた際に得られたものである (101 林管 -2.1- 保-24)。

本稿を草するにあたり、文献の入手その他でご協力いただいたアメリカ合衆国・ウィスコンシン州の Otto 博士に心よりお礼申し上げる。

### *Raapia* Fleutiaux, 1899

*Raapia* Fleutiaux, 1899: 569–570. Type species: *Raapia galboides* Fleutiaux, 1899: 570, by monotypy. Fleutiaux, 1901: 652; Schenkling, 1928: 20 (catalogue: Eucneminae); Miwa, 1931: 147 (catalogue: Eucneminae); Cobos, 1986: 29–30 [key]; Muona, 1987: 88; Muona, 2007: 87 (catalogue: Macrulacinae, Macrulacini). *Raapia*?: Fleutiaux, 1921a: 31 (Eucneminae); Fleutiaux, 1921b: 81 (Eucneminae)

*Raapia* は、東南アジアに分布域をもつ小さな属で、これまでにスマトラに産する *R. galboides* Fleutiaux, 1898, ボルネオに産する *R. angularis* Fleutiaux, 1922, フィリピンに産する *R. philippinensis* Cobos, 1986, そして台湾に産する *R. sauteri* Fleutiaux, 1929 の 4 種が知られている。



Figs. 1–2. *Raapia sauteri* Fleutiaux, 1929. 1, dorsal view; 2, lateral view.

### 形態

体長は中型で6.5–8.5 mm。触角は第2節が短小で、第3節から10節まで雌雄共に櫛歯状を呈する (Fig. 3)。前胸上側板外縁には触角を受け入れるための深く、明瞭な触角溝を備える。上翅末端は、会合部で両側に開き、先端は尖る (Fig. 5)。跗節は長く、単純だが、第4節は他節に比べ短く、先端向かって広く拡張し葉状を呈する (Fig. 8)。爪は内縁中央が深く切れ込み、2歯状となる (Fig. 8)。脛節末端の刺突起の数は前脚が1本、中脚が2本、後脚が1本。前胸腹板突起は腹面から見ると幅広く、平行状で、先端は弧状にえぐられる (Fig. 4)。中胸前側板は大きく半円形を呈し、後胸前側板と接する部分では、後方にやや突出し、鈍く尖る。後胸前側板は長四角形で、前縁は切断状を呈し、尖らない、両側は平行に近いが、後方にわずかに広がる。後胸前側板の長さは中央幅の約6倍に等しく、後胸腹板の外縁長よりわずかに短い。後脚基節の後縁は、内側から1/4で強く後方に突出し、角張る (Fig. 9)。後脚脛節は外縁部に13–15の棘毛列をもち、末端部は棘毛で縁取られる (Fig. 7)。腹部第7節は三角形を呈し、中央部は強く膨隆する。腹部末端はやや鈍く尖る。

分布域。これまでに台湾、フィリピン、スマトラ、ボルネオなど、東南アジアに広く分布することが

知られているが、これらと隣接する中国やインドシナ半島、そしてマレー半島などの地域からの記録は現在のところない。

備考。本属は、Eucneminae 亜科に所属していたが、Muona (2007) の研究により、現在では Macrulacinae 亜科の Macraulacini 族に置かれている。属名の *Raapia* は、M. U. Raap 氏にちなむ。

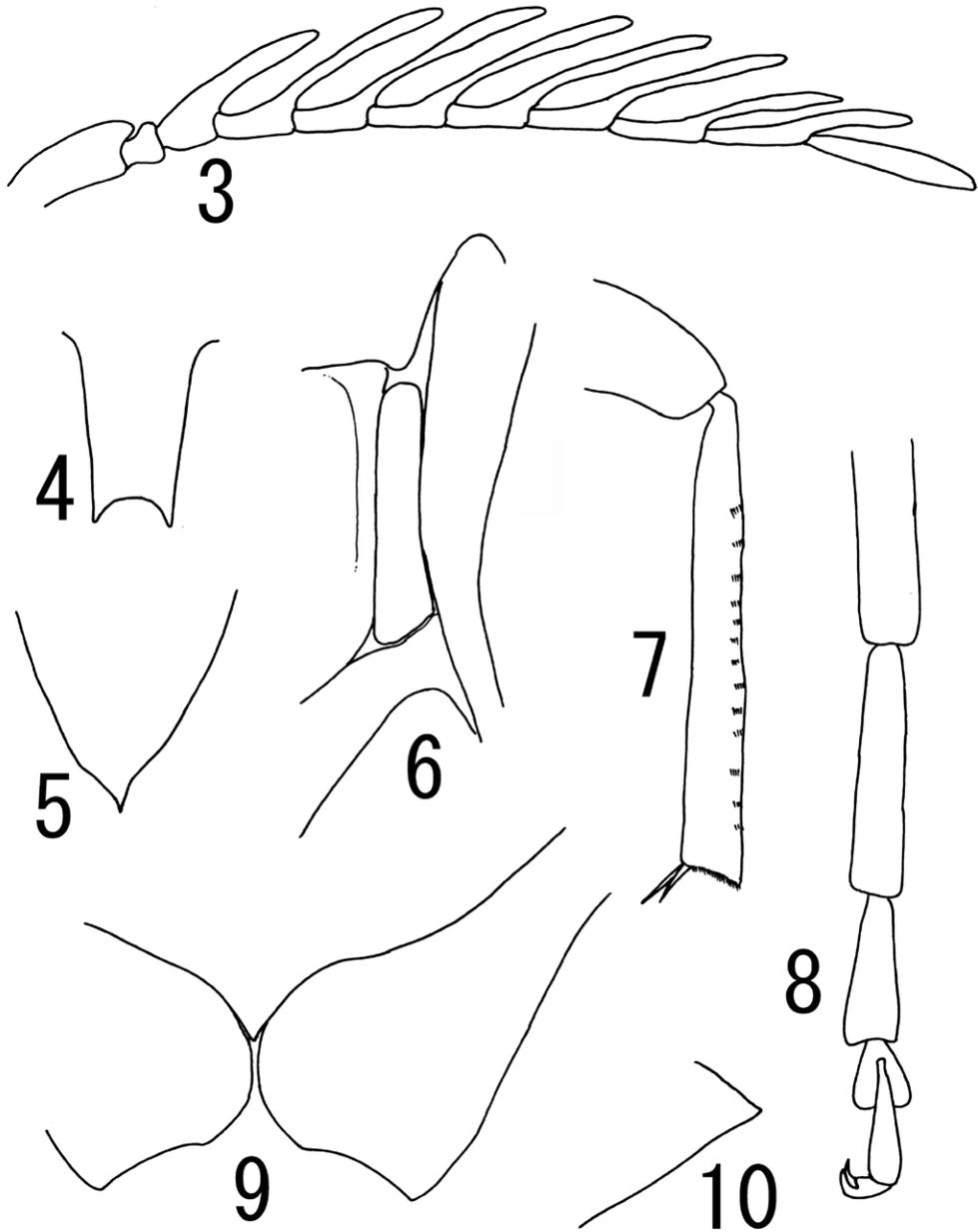
本属は触角が櫛歯状になること、爪の内縁に切れ込みをもつこと、そして、前胸腹板突起先端が腹面から見ると湾入もしくは切れ込む点では、同じ Macraulacini 族に所属し、東南アジアに広く分布する *Semnodema* 属に似るが、前胸背板には明瞭なくぼみを欠くこと、跗節第1–3節は細長く、単純で、4節のみが先端に拡張すること (Fig. 8)、後脚基節の後縁は平行とならず、強く後方に張りだし角張る点で後者から識別することができる。

### *Raapia sauteri* Fleutiaux, 1929 (Figs. 1–10)

ザウタコメツキダマシ 曹太氏偽叩頭蟲

*Raapia Sauteri* Fleutiaux, 1929: 206–207 (Formose).

*Raapia sauteri*: Miwa, Y. 1931: 147 (catalogue); Cobos, 1986: 29 [key]; Muona, 1991: 175; Muona, 2007: 87 (catalogue).



Figs. 3–10. *Raapia sauteri* Fleutiaux, 1929. 3, right antenna; 4, prosternal process, ventral view; 5, apex of right elytron; 6, left metepisternum; 7, right hind tibia; 8, right hind tarsus; 9, hind coxal plates; 10, apex of left posterior angle of pronotum, lateral view.

### 形態

雌. 体長 10.5–11.0 mm. 体は黒色であるが、頭部、前胸、小楯板、中胸腹板は強く赤みを帯びる。全体に光沢があるが、上翅部分では青くくすむ。体は茶褐色の刺毛状の毛で被われるが、前胸背板基部、上翅両側基部、上翅会合部では灰色の毛が混じる。頭部は強く膨隆し、表面は円形に近い点刻

で密に被われる、点刻間は点刻の直径より明らかに狭い。触角 (Fig. 3) は、長くはないが、第 8 節末端において前胸後角先端を越え、11 節末端は体の半分には全く届かない。触角第 2 節は壺門錐状で、長さは幅とほぼ等しい。第 3 節は第 2 節より明らかに長い (1.5 : 1.0)、第 4 節に比べると短い (1.0 : 1.5)、第 3 節の分枝長は第 4 節のそれより短い (1.00

: 1.24). 11 節は細長く、第 10 節の 1.54 倍に等しい。前胸背板は丸みを帯びた台形状で長さは基部幅の 0.8 倍に等しい。前縁は狭く縁取られる。背面は強く膨隆し、表面は頭部同様の点刻で被われるが、両側部では粗雑になる。中央基部はわずかに凹み、その中に 1 本の浅い縦溝をもつ。後角は横から見ると、幅広く、先端は鈍く尖り、先端角はおおよそ 65 度 (Fig. 10)。小楯板は舌状で、強く膨隆し、やや粗雑に点刻される。上翅側縁は平行状で、基部のおおよそ 2.5 倍に等しい。条線は第 1 条は翅端まで明瞭だが、2-5 条は基部にのみ認められる。表面は小さな点刻を散布するが、基部ではやや密生する。前胸腹板は小さいが明瞭な点刻で被われ、点刻間は光沢を放つ。前胸前側板はやや痘痕状に点刻されるが、触角溝では無点刻で表面は滑らかとなる。中胸前側板は弱く膨隆し、前縁部ではやや粗雑に点刻されるが、中央部では点刻を欠き、後半部では円形の点刻を疎らに被う。後胸腹板は点刻で密に被われ、やや粗雑となる。腹部第 7 節の後半部分は、小さな刺状突起を密に備える。

検視標本。2♀♀、台湾省台東県知本国家森林遊楽区 [Chihpen National Forest Recreation Area], 25. X. 2012, Malaise trap, 謝瑞帆採集。

分布。台湾。

Muona (1991) は、*Bothrion* 属群の分布と系統の分岐図中で、本種の分布について、台湾については触れず、NG [= New Guinea] だけを分布に挙げている。本種がニューギニアから記録された例がこれまでにないことから、台湾とすべきところを誤って "NG" としてしまったものと思われる。

備考。原記載に用いられた個体は、体長が 7-8.5mm と今回検することができた個体よりも小型であること、触角はより長く、体の半分まで届くなどの違いが認められた。原記載では性別については触れられていないが、触角の長さが今回の

雌に比べ長いことを考えると、原記載に使われた標本は雄である可能性が高いと思われる。

本種は、同属の他種とは、胸部が赤みを帯びた黒色であること、上翅は黒色で、条線が基部を除き不明瞭であること、触角は雌雄共に先端節が前胸後角を越えること等の特徴を持つことによって、識別することができる。

#### 引用文献

- Cobos, A., 1986. The Noona Dan Expedition, 1961-1962. Coleoptera: Throscidae y Eucnemidae. Eos, [1985] 61: 13-67.
- Fleutiaux, E., 1899. Eucnémides et Elatérides récoltés à l'île Nias par M. U. Raap en 1897 et 1898. Annali del Museo Civico di Storia Naturale di Genova, 39: 569-572.
- Fleutiaux, E., 1921a. Études sur les Melasidae (Coleoptera-Serricornia), 2. Annales de la Société Entomologique de Belgique, 61: 23-41.
- Fleutiaux, E., 1921b. Études sur les Melasidae (Coleoptera-Serricornia), 3. Annales de la Société Entomologique de Belgique, 61: 68-87.
- Fleutiaux, E., 1922. Trois Melasidae nouveaux (Col.). Bulletin de la Societe entomologique de France, 1922: 148-150.
- Fleutiaux, E., 1929. Melasidae nouveaux (Col.). Bulletin de la Societe entomologique de France, 1929: 206-209.
- Miwa, Y., 1931. A systematic catalogue of Formosan Coleoptera. Report of the Department of Agriculture Government Research Institute Formosa, (55): xi+ii+359 pp.
- Muona, J., 1987. The generic names of the beetle family Eucnemidae (Coleoptera). Entomologica Scandinavica, 18: 79-92.
- Muona, J., 1991. The Eucnemidae of South-East Asia and the Western Pacific — a biogeographical study. Australian Systematic Botany, 4: 165-182.
- Muona, J., 1993. Review of the phylogeny, classification and biology of the family Eucnemidae (Coleoptera). Entomologica Scandinavica, Supplement, (44): 1-133.
- Muona, J., 2007. Family Eucnemidae. In: I. Löbl and A. Smetana (eds.), Catalogue of Palaearctic Coleoptera, 4: 81-87. Apollo Books, Stenstrup.
- Schenkling, E., 1928. Melasidae. Pars. 96. In: Schenkling, S. (ed.): Coleopterorum Catalogus. Berlin: W. Junk. 110 pp.

(2014 年 2 月 5 日受領, 2014 年 5 月 20 日受理)

#### 【短報】久米島未記録のコメツキムシ2種

沖縄県久米島のコメツキムシは、これまでに 26 種 (種名未確定種 *Quasimus* sp. を 2 種含む) が知られている (鈴木・乙部, 2013)。筆者は、久米島から記録のなかった 2 種のコメツキムシを報告する。

1. シバタチャイロコメツキ *Haterumelater bicarinatus shibatai* Ôhira, 1968

1♂, 沖縄県久米島仲里村儀間, 29. VIII. 1995, S. Inada leg.

分布: 中之島, 悪石島, 奄美大島, 徳之島, 沖縄島, 伊平屋島, 久米島, 石垣島, 西表島, 与那国島。

2. マトバウスカバイロコメツキ *Chatanayus insularis isaoi* (Kishii, 1973)

2♀♀, 沖縄県久米島仲里村儀間, 29. VIII. 1995, S. Inada leg.

分布: 奄美大島, 沖縄本島, 久米島。

#### 引用文献

- 鈴木 互・乙部 宏, 2013. 久米島から採集された興味あるコメツキムシについて. さやばねニューシリーズ, (10): 5-12.

(鈴木 互 法政大学第二高等学校生物科)

ハマベエンマムシ *Hypocaccus (Baeckmanniolus) varians varians* (Schmidt, 1890)

鳥取砂丘 (高橋, 1964: 30); 鳥取市浜坂千代川河口右岸, 鳥取市福部町湯山砂丘海水浴場 (河上ほか, 2012: 17; 鶴崎ほか, 2012: 61); 北栄町由良宿由良川河口右岸 (林ほか, 2012: 70); 鳥取市浜坂町 (1 ex., 12/iv/1944, 15 exs., 28/vii/1944, OMNH) HA; 鳥取市船磯 (6 exs., 6/vii/1964, OMNH) HA; 鳥取市 (1 ex., 10/v/1955, OMNH) HA; 鳥取市青谷 (2 exs., 21/iv/1961, 1 ex., 29/vi/1964, 2 exs., 2/vii/1964, OMNH) HA.

ツヤハマベエンマムシ *Eopachylopus ripae* (Lewis, 1885)

鳥取市浜坂千代川河口右岸 (河上ほか, 2012: 17; 鶴崎ほか, 2012: 61); 鳥取市福部町湯山砂丘海水浴場 (河上ほか, 2012: 17; 鶴崎ほか, 2012: 61); 鳥取市浜坂町 (12 exs., 28/vii/1944, OMNH) HA.

引用文献

- 林 成多・藤原淳一・松田隆嗣・門脇久志, 2010. 鳥取県大山における甲虫類の採集記録. ホシザキグリーン財団研究報告, (13): 189-214.
- 林 成多・門脇久志・松田隆嗣・藤原淳一, 2012. 鳥取県大山における昆虫類の生息状況. ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (7): 49-98.
- 東 光治, 1939. 鳥取地方の砂丘に於ける昆虫相. 関西昆虫学会会報, (8): 25-46.
- 猪股修二郎・石井輝士, 1934. 鳥取砂丘地帯に於て採集せられたる昆虫に就て. 生物の研究 (鳥取高農生物同好会), (3/4): 116-120.

- 井上敏明, 1996. 鳥取県中部における甲虫分布 (7). ゆらぎあ, (14): 8-12.
- 河上康子・林 成多・鶴崎展巨, 2012. 鳥取砂丘と浦富海岸の海岸性甲虫類. 山陰自然史研究, (7): 15-20.
- 水野弘造, 2004. 鳥取県大山産甲虫目録. すずむし, (138): 43-55.
- 小川弘展・野坂 舞・橋井菜都美・横山瑞歩・鶴崎展巨, 2012. 鳥取砂丘における 2011 年の昆虫類調査の記録と "砂丘オアシス" の動物相. 山陰自然史研究, (7): 31-40.
- 大原昌宏, 1994. 比和町立自然史博物館所蔵のエンマムシ類. 比婆科学, (162): 55-56.
- Ôhara, M., 1986. On the genus *Platysoma* from Japan (Coleoptera, Histeridae). Papers on entomology presented to Prof. Takehiko Nakane in commemoration of his retirement. 91-106 pp.
- Ôhara, M., 1989. On the species of the genus *Margarinotus* form Japan (Coleoptera, Histeridae). Ins. matsum. n. s., 41: 1-50.
- Ôhara, M., 1992. A revision of the genus *Merohister* from Japan (Coleoptera, Histeridae), Part. 1. Jpn. J. Ent., 60 (2): 377-389.
- Ôhara, M., 1994. A revision of the superfamily Histeroidea of Japan (Coleoptera). Ins. matsum., n. s., (51): 1-283.
- Ôhara, M., 1999. A revision of the superfamily Histeroidea of Japan (Coleoptera). Supplementum 1. Ins. matsum., n. s., (55): 75-132.
- Ôhara, M. & Nakane, T., 1986. On the genus *Onthophilus* from Japan (Coleoptera: Histeridae). Ins. matsum., n. s., (35): 1-15.
- Ôhara, M. & Nakane, T., 1989. Redescription of two Japanese histerid belonging to the tribe Exosternini (Coleoptera, Histeridae). Jpn. J. Ent., 57 (2): 283-294.
- 佐藤隆士・鶴崎展巨, 2010. 鳥取砂丘の昆虫相 (予報). 鳥取県立博物館研究報告, 47: 45-81.
- 高橋 匡, 1962. 鳥取砂丘の環境と昆虫. 砂丘研究, 8: 39-60.
- 高橋 匡, 1964. 鳥取砂丘昆虫目録 (第2報). 砂丘研究, 10: 29-38.
- 鶴崎展巨・林 成多・宮永龍一・一澤 圭・川上 靖, 2012. 鳥取砂丘の昆虫類目録. 山陰自然史研究, (7): 47-82.
- (2014年2月21日受領, 2014年5月20日受理)

【短報】台湾東部におけるクロビロウドコメツキダマシの採集例

クロビロウドコメツキダマシ *Galbites borealis* (Hisamatsu, 1980) は, 屋久島および台湾の南山溪で採集された個体に基づいて命名記載された種である. その後, 日本では九州本土からも記録され, 幼虫の形態や食樹などの生態についても明らかにされた (鈴木, 2012). 台湾では, 原記載の南投県の南山溪のほか, 高雄県の扇平で採集された記録はあるが (鈴木, 2001), ほとんど記録のない珍しい種である. 筆者らは, これまで記録のなかった台湾東部で採集された個体を検することができたので, ここに報告しておきたい.

2♀♀, 台湾省宜蘭縣礁溪跑馬古道, 12. IV. 2012, 謝瑞帆採集.

日本においては, 雌が雄に比べ大型となることが知られているが, 今回得られた台湾の個体も日本の雌同様に大型であった. 台湾にはピロウドコ

メツキダマシ属 *Galbites* の種が何種も知られているが, 本種は体が平行状であること, 地肌が黒色であること, 毛は疎らで, 斑紋をいっさい持たないことにより識別することができる.

引用文献

- Hisamatsu, S., 1980. The genus *Pterotarsus* Guérin-Ménéville in Japan (Coleoptera, Eucnemidae). Transactions of the Shikoku Entomological Society, Matsuyama, 15(1-2): 27-30.
- 鈴木 互, 2001. 台湾におけるクロビロウドコメツキダマシの記録. 月刊むし, (360): 51.
- 鈴木 互, 2012. 日本産ピロウドコメツキダマシ属の3種について. さやばね ニューシリーズ, (6): 7-12.

(鈴木 互 法政大学第二高等学校生物科)  
(謝 瑞帆 國立臺灣大學昆蟲學系暨研究所 昆蟲保育研究室)